

平成27年度 決算報告書  
(第12期)

国立大学法人鳥取大学  
(単位：百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	10,749	11,262	513	(注 1)
施設整備費補助金	614	607	△6	(注 2)
補助金等収入	328	858	530	(注 3)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	51	51	-	
自己収入	23,470	24,236	767	
授業料、入学料及び検定料収入	3,603	3,484	△117	(注 4)
附属病院収入	19,336	20,184	848	(注 5)
雑収入	531	567	36	(注 6)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,136	1,961	825	(注 7)
長期借入金	366	354	△11	(注 8)
目的積立金取崩	703	803	100	(注 9)
計	37,417	40,135	2,719	
支出				
業務費	33,201	34,512	1,311	
教育研究経費	14,613	15,611	999	(注 10)
診療経費	18,588	18,900	312	(注 11)
施設整備費	1,031	1,012	△18	(注 12)
補助金等	328	858	530	(注 13)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,136	1,661	525	(注 14)
長期借入金償還金	1,721	1,714	△5	(注 15)
計	37,417	39,760	2,343	
収入－支出	-	375	375	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、業務達成基準を適用した事業、退職手当等にかかる前年度からの繰越額が措置されたこと及び予算段階では予定していなかった特別運営費交付金が追加交付されたことにより、予算金額に比して決算金額が513百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、事業計画が変更されたことにより、予算金額に比して決算金額が6百万円少額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、予算額に計上していなかった補助金の受入により予算金額に比して決算金額が530百万円多額となっています。
- (注4) 授業料、入学料及び検定料収入については、主に授業料、入学料が減少したことから、予算金額に比して決算金額が117百万円少額となっています。
- (注5) 附属病院収入については、主として外来診療単価の上昇、入院患者数の増加による増収により、予算金額に比して決算金額が848百万円多額となっています。
- (注6) 雑収入については、科学研究費補助金間接経費収入の増加等により予算金額に比して決算金額が36百万円多額となっています。
- (注7) 予算段階では予定していなかった民間等からの受託研究等の獲得に努めたため、予算金額に比して決算金額が825百万円多額となっています。
- (注8) 長期借入金については、事業計画の変更による借入額の減少により、予算金額に比して決算金額が11百万円少額となっています。
- (注9) 目的積立金取崩については、事業計画が追加されたことにより、予算金額に比して決算金額が100百万円多額となっています。
- (注10) 教育研究経費については、(注1)に示した収入の増加に伴い、執行額も増加したために予算金額に比して決算金額が999百万円多額となっています。
- (注11) 診療経費については、(注5)に示した収入の増加に伴い、執行額も増加したために予算金額に比して決算金額が312百万円多額となっています。

(注12) (注2)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が18百万円少額となっています。

(注13) (注3)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が530百万円多額となっています。

(注14) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、(注7)に示した収入の増加に伴い、執行額も増加したために予算金額に比して決算金額が525百万円多額となっています。

(注15) 長期借入金については、金利変更等償還計画の変更により予算金額に比して決算金額が5百万円少額となっています。

○「産学連携等研究収入及び寄附金収入等」のうち、前年度よりの繰越額からの使用額158百万円。

○決算額と損益計算書上の計上額との差異について

教育研究経費、診療経費の決算額と損益計算書上の計上額との差の主なものは、固定資産取得に関わる支出であります。